

WebSphere Application Server V3.0.2
Standard Edition for OS/2



はじめに

WebSphere Application Server V3.0.2
Standard Edition for OS/2



はじめに

ご注意

本書の情報およびそれによってサポートされる製品を使用する前に、39ページの『付録C. 特記事項』に記載する一般情報をお読みください。

この版は、WebSphere™ Application Server for OS/2® Standard Edition version 3.02、および新規の版で特に断りのない限り、以降のすべてのリリースおよび修正に適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典： WebSphere Application Server Standard Edition
Version 3.02 for OS/2
Getting Started

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2000.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2000. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2000

目次

図	v
表	vii
本書について	ix
本書の対象読者	ix
本書で使用される規則および用語	ix

第1章 IBM WebSphere Application

Server について	1
WebSphere Application Server について	1
WebSphere Application Server の機能強化	1
WebSphere Application Server バージョン 3.0 の機能	1
Web サイト内容を生成し、その内容にアクセスす るためのサブリット・サポート	2
Web 内容をビジネス論理から分離するための JavaServer Pages ファイル・サポート	3
Web ベースのアプリケーションに可能な環境	3
詳細情報	5
Document Center	5
WebSphere 管理コンソール・ヘルプ	5
Web に関する情報	6

第2章 WebSphere Application Server の インストールの計画

ハードウェア要件	7
ソフトウェア要件	7
WebSphere Application Server がサポートするトポロ ジー	8
サブリットの移行および前回のバージョンのアンイ ンストール	8
アンインストール前のサブリットのバックアップ	9
WebSphere Application Server の前回のバージョン のアンインストール	9
WebSphere Application Server インストール・コンポ ーネントおよびオプション	9
WebSphere Application Server インストールのヒント	10
インストール前	10
インストール中	11
インストール後	12

第3章 WebSphere Application Server のインストールおよび構成

WebSphere Application Server のインストール	13
インストールのための主なステップ	13
WebSphere Application Server のインストール	14
代替インストール・メソッド	14
セキュリティ・ランタイムの構成	15

第4章 WebSphere 管理コンソールのイン

ストール	17
ハードウェア要件	17
ソフトウェア要件	17
WebSphere 管理コンソールのインストール	17
標準インストール	17
Web 分散型インストール	18

第5章 WebSphere Application Server

のアンインストール	21
デスクトップからのアンインストール	21
コマンド・プロンプトからのアンインストール	21

第6章 WebSphere Application Server

バージョン 1.1 からの移行	23
サブリットの移行	23
移行済みのサブリットの活動化	23

第7章 WebSphere Application Server

の開始および停止	25
管理サーバーの開始	25
デスクトップからの管理サーバーの開始	25
コマンド・プロンプトからの管理サーバーの開始	25
管理サーバー の停止	25
WebSphere 管理コンソールの開始	26
デスクトップからの WebSphere 管理コンソール の開始	26
コマンド・プロンプトからの WebSphere 管理コ ンソールの開始	26
トラブルシューティングのヒント: コンソール・ ウィンドウが表示されない場合	26
WebSphere 管理コンソールの終了	26
アプリケーション・サーバーの開始および停止	26

第8章 インストールのテストおよびトラブ ルシューティング

WebSphere Application Server が実行中であることの 検証	29
Lotus Domino Go Web サーバーのテスト	29
サブリットのテスト	29
サブリットのトラブルシューティング	30
現在のサーバー構成の表示	30
デバッグ、トレース、ロギングおよびモニター	30

第9章 WebSphere 管理コンソールを使用 する際のヒント

WebSphere 管理コンソールにより実現可能な機能	31
WebSphere 管理コンソールを使用する際のヘルプ	32

第10章 サービスについて

付録A. インストールに使用可能なコンポーネントおよびオプション 35

付録B. Lotus Domino Go Web サーバー構成ファイルの変更 37

付録C. 特記事項 39
商標 41

索引 43



1. WebSphere Application Server (WAS) の単一マシン・トポロジー 8

表

1. インストールのための主なステップ 13

本書について

本書では、インストールのための準備、インストールの完了、インストール後の WebSphere Application Server Standard Edition Version 3.02 for OS/2 (WebSphere Application Server) の開始、トラブルシューティングのヒント、およびテストのヒントを中心に説明します。また、本書には、クライアント・サイドのインストールおよび共通タスクなど、WebSphere 管理コンソールに関する情報も記載されています。また、本書には、WebSphere Application Server テクニカル・サービスおよびサポートに関する問い合わせ先についてのリストも記載しています。

本書「はじめに」は、WebSphere Application Server インストール・コンポーネントおよびオプションならびに Lotus® Domino™ Go Webserver 構成ファイルの修正に関する詳細情報のクイック・リファレンスとして利用できます。本書には索引があり、特定のトピックを素早く検索するのに役立ちます。

WebSphere Application Server 機能の使用法を習得するために、追加情報リソースも使用可能です。これらのリソースには、ドキュメント・センターおよび WebSphere Application Server ヘルプ・システムが組み込まれています (5ページの『詳細情報』を参照)。

本書の対象読者

本書は、インストーラー、システム管理者、開発者、およびシステム設計者などの WebSphere Application Server V3.0.2 Standard Edition for OS/2 ユーザーを対象にしています。

本書で使用される規則および用語

本書では、以下の規則が使用されます。

- **太字体**は、選択する必要がある項目名、フィールド名、およびフォルダー名を示します。以下のような、(作業手順で使用される場合の) 制御も示します。
 - メニュー・バー選択項目
 - ラジオ・ボタン
 - 押しボタン
 - リスト・ボックス
 - チェック・ボックス
 - 入力フィールド
 - 読み取り専用入力フィールド
- **イタリック体**は、専門用語、資料名およびディスケット・タイトル、強調される語、または実際の値で置き換えられるべき変数情報を示します。
- **モノスペース体**は、コーディング例、特殊文字、入力するテキスト、または表示されるテキストを示します。

第1章 IBM WebSphere Application Server について

本章では、WebSphere Application Server の簡単な概要について説明します。本章には以下のトピックに関する情報が含まれています。

- WebSphere Application Server 機能強化
- WebSphere Application Server 機能
- サブレットおよび Web サイト内容へのアクセス
- Java[®]Server Pages
- Web ベースのアプリケーションの環境としての WebSphere Application Server

WebSphere Application Server について

WebSphere Application Server を使用すると、e-business アプリケーションで Web トランザクションおよび対話ができます。これは、サブレット、JavaBeans、および JavaServer Pages (JSP) ファイルのサポートと実行に焦点を当てた、移植可能な Java ベースの Web アプリケーション開発プラットフォームを提供します。

WebSphere Application Server は、Lotus Domino Go Web サーバーを使って作動し、セキュリティと制御のための機能を提供します。

WebSphere Application Server の機能に関する詳細については、『WebSphere Application Server バージョン 3.0 の機能』を参照してください。

WebSphere Application Server の機能強化

WebSphere Application Server は、Java アプリケーションとコンポーネントを管理するための強力な開発環境とアプリケーション・サービスのセットを提供します。新たに、以下の機能が強化されています。

- サブレットおよび JSP ファイルの展開する際の、広範囲のパフォーマンスとスケリングの改善
- 展開マネージャー・インターフェースおよびアプリケーション実行サービスの改善
- 追加プロトコルおよびアプリケーション・アダプター・インターフェース・サポート
- セキュリティー制御および管理の改善

WebSphere Application Server バージョン 3.0 の機能

Web の市場は、急速に成長し続けています。対話式と自給式のトランザクションを提供することによって、動的 HTML ページをもつ Web サイトは、ますます、競合の効果が増します。この対話式のビジネス論理アプリケーションは陰で機能し、ユーザー要求に応答してデータに即時にアクセスできるようにします。

ビジネスでは、Web ベースのビジネス論理を提供しサポートする Java テクノロジーを見かけることがますます頻繁になっています。JSP ファイル、サブレット、

および Java が使用可能なデータベース接続を使用する Web サイトは、高性能のトランザクションとお客様との動的対話をサポートします。このような成長によって、以下のような難問が発生しています。

- 従業員の現在のスキルを利用して、Java テクノロジーを活用する方法を見つける。
- ビジネス論理プログラマーを組み込む Web チームの展開時に、作成者、設計者、およびプログラマーが同時に作業できるようにする。
- Web サイトがデータ主導でありトランザクションである現在、コレクション、記憶域、生成、およびデータの表示を最大限使用する。
- 現行のソリューションを、業界全体の Web の存在とともに成長させる。

WebSphere Application Server は、これらの問題に対処し、企業の成長をサポートするためのソリューションを提供します。

- 安価で使いやすく、管理が容易なソリューションを提供する。
- Web アプリケーションを構築するための基礎構造をもつ、e-business 用のサイト作成を手助けする。

WebSphere Application Server Standard Edition は、Web オーサリングと設計タスクをビジネス論理プログラミング・タスクから分離しています。その結果、効果を最大にし、それぞれの役割間の干渉を最小限にして、プログラマーと従来の Web チーム・メンバーが共同で作業することができます。

Web サイト内容を生成し、その内容にアクセスするためのサーブレット・サポート

ブラウザの機能を拡張するために Java アプレットをブラウザで実行するのと同様の方法で、サーバーの機能を拡張するために、Java が使用可能な Web サーバーで Java サブレットを実行します。他のビジネス論理コンポーネントのように、サブレットは、Web サイトの内容を生成したり、データベースから内容にアクセスすることができ、ユーザーの要求に新規レベルで応答できます。

WebSphere Application Server は、複数の Web サーバーとオペレーティング・システムと互換性のある Java ベースのサブレット・エンジンを提供します。サブレット・エンジンは以下をサポートします。

サブレット構成

関連したクラス・ファイル、サブレットが始動時にロードするかどうか、およびだれがサブレットにアクセスできるかを決定するためのセキュリティ・プロファイルなどの、個々のサブレットに関する構成情報および初期設定パラメーターを定義します。

仮想ホスト

サブレットに対する代替パスを指定します。Web サーバーは、サブレット要求時にクライアントが指定したドメインを基にした別々のドキュメントを供給できます。

別名割り当て

ユーザーがショートカットの Web アドレスを入力して特定のサブレットを呼び出すことができるようにする、パス・マッピング規則を指定します。

フィルター操作

サブリットをマルチパーパス・インターネット・メール・エクステンション (MIME) 型と関連付け、特定の MIME 型をもつ応答を生成するたびに、特定のサブリットが呼び出されるようにします。

Web 内容をビジネス論理から分離するための JavaServer Pages ファイル・サポート

Web サーバーとアプリケーション・サーバーを組み合わせると、Web チームは、お客様が自給式でトランザクションを実行できる、真に対話式の Web サイトを作成することができます。これらのトランザクション中にユーザーとバックエンド・データベースの Web サイトを流れるデータの説明および表示に、HTML だけでなく別のテクノロジーを使用できます。これらのテクノロジーには、Sun Microsystems の JavaServer Pages (JSP) ファイル仕様と eXtensible Markup Language (XML) があります。

WebSphere Application Server は、JSP、XML、ビジネス論理アプリケーション、および HTML を結合して、ユーザー要求の収集、ビジネス論理アプリケーションに対するデータの生成またはデータへのアクセスの要求、および結果の書式設定および表示を行なうための、Web ベースのストアフロントを提供します。

WebSphere Application Server は JSP エンジンおよびタグ・サポートを提供します。JSP は、ユーザーが表示論理 (HTML など) をビジネス論理 (サブリットなど) から分離することができようになると同時に、サーバー側のスクリプト記述とタグ付けを結合します。それぞれの JSP ファイル内には、JSP 構文、HTML タグ、サブリット・タグ、NCSA タグ、およびインライン Java コードを組み込むことができます。JSP ファイルを使用すると、サブリットおよび Java ベースの Web アプリケーションなど、必要に応じた再利用可能なビジネス論理コンポーネントにアクセスして、ユーザー要求を処理することができます。JSP ファイルは、ドキュメントの構造、内容、および表示を分離することも可能にします。これによって、Web チーム・メンバーは、お互いの作業に与える影響を最小限にして作業することができます。

また、WebSphere Application Server は XML Document Structure Services も提供します。これは、サーバー側の XML 処理のための文書パーサー、文書バリデーター、および文書生成プログラムから構成されます。これらの機能を使用すると、XML の能力である、HTML に代わるタグ付けを利用することができます。XML を使用すると、以下を容易に行なうことができます。

- ドキュメント内容の説明、判別、検証および検索
- 外国語のユーザーを含めて、共通点のないアプリケーションとユーザー間での情報の交換

Web ベースのアプリケーションに可能な環境

WebSphere Application Server は、Web ベースのアプリケーションを展開し管理するための、安全でスケーラブルな環境を提供します。

Lotus Domino Go Web サーバー のプラグイン

WebSphere Application Server は Lotus Domino Go Web サーバーのプラグインを提供し、それを Java アプリケーション・サーバーに拡張することができます。

セキュリティ

WebSphere Application Server は、HTML ページ、CGI-BIN プログラム、サーブレット、および JSP ファイルを含め、Web リソースへのアクセス制御を提供するためのサーブレット・エンジンおよび Lotus Domino Go Web サーバーを処理するセキュリティ・サーバーを提供します。セキュリティ・サーバーは、認証および許可などの、集中したセキュリティ・ポリシー制御とセキュリティ・サービスを提供します。

WebSphere Application Server は、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サービス、Lightweight Third Party Authentication (LTPA) サービス、または基礎となるオペレーティング・システムによってすでに定義されているユーザーに対するユーザーを認証することができます。ローカルの認証では、LAN サービス・ファイルおよび印刷ユーザー・プロファイル管理を使用します。

基本とカスタムの両方の認証が使用できます。カスタム認証を使用すると、ユーザーの Web リソースを保護するためのセキュリティをカスタマイズできます。

LTPA サポートは、便利な単一サインオンを達成するためのフレームワークを提供します。すなわち、セッションの始めにユーザー自身を認証すると、もう一度認証しなくても、WebSphere Application Server および Lotus Domino Go Web サーバー にあるさまざまなリソースにアクセスできます。

WebSphere Application Server Document Center のセキュリティ情報では、追加のセキュリティ機能について説明し、セキュリティのセットアップを手引きします。詳しくは、5ページの『Document Center』を参照してください。

セッション・トラッキング

WebSphere Application Server は、Lotus Domino Go Web サーバーのユーザー・プロファイルとセッション・トラッキングをサポートします。この機能は、Web サイト・ユーザーに関する情報を保守し、同じユーザーからの要求をセッションにグループ化する際に役立ちます。

接続のプール

WebSphere Application Server は、Java データベース・コネクティビティ (JDBC) 準拠のデータベースへの接続をキャッシュし再利用する接続プーリング機能を提供します。サーブレットがデータベース接続を必要とする場合、使用可能な接続のプールから選択でき、要求ごとに新規の接続をオープンするのに必要なオーバーヘッドを除去します。

広範囲なモニター

WebSphere Application Server は、広範囲なモニター機能を提供し、サーブレット、スレッド、システム・リソース、データベース接続プール、およびユーザー・セッションを含むリソースをトラックスします。モニター・インタ

ーフエースは、システムの状態とパフォーマンスの診断を簡単にする図表とテーブルの表示を提供します。トレースとログも提供されます。

サンプル

WebSphere Application Server には、小さい一般サンプルのセットが組み込まれているサンプル・ギャラリーがあります。サンプルを使用すると、共通した機能をユーザー独自の Web サイトに追加し、WebSphere Java プログラミング・モデルの基本概念を教え、WebSphere Application Server を最大限活用するための使いやすいテクニックを迅速に説明することができます。サンプル・ギャラリーには、架空の会社 YourCo の完全なイントラネット Web サイトもあります。YourCo の Web サイトでは、ギャラリー内の簡単なサンプルを実生活の状態に適用し採用できる方法を示しています。

WebSphere Application Server の開始すると、IBM WebSphere サンプル・ギャラリーで、サンプルに関する詳細にアクセスできます。

`http://<your_server_name> /WebSphereSamples/index.html`

注: サンプルを使用するには、HTML 4、Cascading Stylesheets (CSS)、および Java アプレットをサポートする Web ブラウザーが必要です。このようなブラウザーの例には、Netscape Communicator 4.61 for OS/2 があります。さらに、データベースを使用する多くのサンプルでは、DB2 データベースを使用していることが必要です。

詳細情報

WebSphere Application Server Documentation Center、WebSphere 管理コンソール・ヘルプ、および WebSphere Application Server Web サイトを含む、WebSphere Application Server に関する詳細を入手するには、複数の方法があります。

Document Center

Document Center によって、製品プログラミング資料、WebSphere 管理コンソールヘルプ、Javadoc、Web サイト、および他の製品リソースへ容易にアクセスすることができます。

Document Center にアクセスするためには、HTML 4、Cascading Stylesheets (CSS)、および Java アプレットをサポートする Web ブラウザーが必要です。このようなブラウザーの例には、Netscape Communicator 4.61 for OS/2 があります。以下をオープンします。

`<as_root> %web%doc%begin_here%index.html`

ここで、`<as_root>` は、WebSphere Application Server がインストールされているディレクトリーです。

WebSphere 管理コンソール・ヘルプ

WebSphere 管理コンソールは、WebSphere Administrative Server へのシステム管理インターフェースを提供する WebSphere Application Server のコンポーネントです。ヘルプには、基本タスクを実行する方法の解説、ダイアログのヘルプ、および入力フィールドのヘルプが含まれます。ヘルプにアクセスするためには、HTML

4、Cascading Stylesheets (CSS)、および Java アプレットをサポートする Web ブラウザーが必要です。このようなブラウザの例には、Netscape Communicator 4.61 for OS/2 があります。

メニュー・バーの **[Help (ヘルプ)]** をクリックして、WebSphere 管理コンソール内のヘルプにアクセスすることができます。コンソールの外のヘルプにアクセスするには、ユーザーのブラウザを使用して、以下をオープンします。

`<as_root> %web%help%helpcon.htm`

ここで、`<as_root>` は、WebSphere Application Server がインストールされているディレクトリーです。

Web に関する情報

WebSphere Application Server Web サイトには、以下が組み込まれています。

- WebSphere Application Server に関する一般情報
- 討論フォーラムを含めた、製品サポート
- 製品ニュース
- 事例研究および研修
- 順序付け情報

サイトのアドレスは以下のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/websphere/appserv/>

第2章 WebSphere Application Server のインストールの計画

本章では、インストールの前に考慮に入れておくべきさまざまな概念について説明します。本章では、ハードウェアおよびソフトウェア要件、トポロジー、前回のバージョンからの移行、インストール・オプション、およびインストールのヒントについて説明します。

ハードウェア要件

以下は、WebSphere Application Server をインストールし操作するための最小限のハードウェア要件です。

- Pentium® II またはそれに相当するプロセッサまたはそれ以降
- 256 MB の RAM (512 MB を推奨)
- 製品をインストールするための 200 MB の空きディスク・スペース
- 解像度 800x600 のモニター (1024x768 を推奨)
- TCP/IP 通信用のネットワーク・アダプター

ソフトウェア要件

以下は、WebSphere Application Server をインストールし操作するための最小限のソフトウェア要件です。

- 以下のコンポーネントがインストールされている、e-business 用 OS/2 Warp Server
 - IBM® OS/2 Warp Developer Kit、Java Edition、バージョン 1.1.7 または IBM OS/2 Warp Developer Kit、Java Technology Edition、バージョン 1.1.8 のいずれかのランタイム・コンポーネント
 - LAN サービス・ファイルおよびプリント
 - ネットワーク・アダプターおよびプロトコル・サービス
 - TCP/IP
 - REXX サポート
- Lotus Domino Go Web Server バージョン 4.6.2.6 またはそれ以降 (必須)
- Netscape Communicator for OS/2 バージョン 4.61 またはそれ以降 (必須)
- DB2 Universal Database バージョン 5.2 修正パッケージ 11 またはそれ以降、またはバージョン 6.1 修正パッケージ 3 またはそれ以降 (オプション)

注: Lotus Domino Server (Lotus Domino Go Web サーバーではなく) は、WebSphere Application Server とは同時に存在できません。WebSphere Application Server をインストールする前に、Lotus Domino Server をアンインストールしなければなりません。

WebSphere Application Server がサポートするトポロジー

WebSphere Application Server V3.0 Standard Edition は、1 つのトポロジーで、すべてのコンポーネントを単一の物理マシン上にもっています。基本トポロジーは、以下のとおりです。

- 1 つのワークステーションで実行する。
- 単一ノード上の Web サーバーがアクセスする 1 つ以上のアプリケーション・サーバーを形成する。
- 最もよくサポートしているサーブレットおよび JavaServer Pages (JSP)、JavaBeans、およびデータ・アクセス JavaBeans を実行する。

このトポロジーには、以下のような利点があります。

- 最小限の管理
- アプリケーション開発と展開との間のバリアの最小化
- 永続単一データベース・データを動的 Web アプリケーションに統合するための扱いやすさ

このトポロジーは唯一のサーバー・グループを許可し、複製は許可しません。

図 1 に示す構成を使用します。

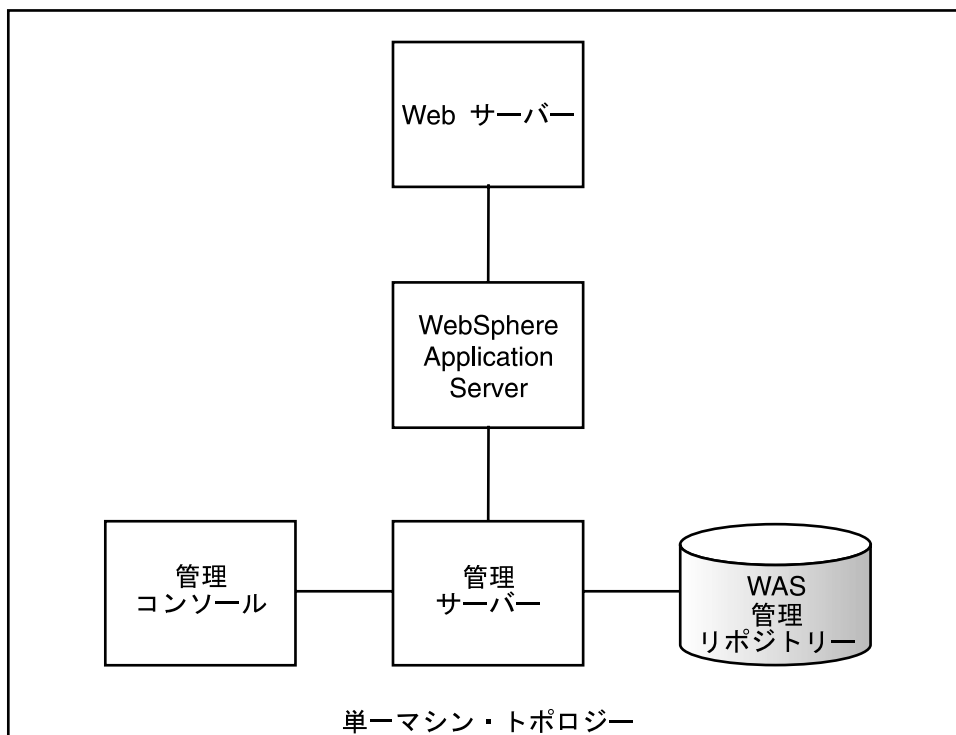


図 1. WebSphere Application Server (WAS) の単一マシン・トポロジー

サーブレットの移行および前回のバージョンのアンインストール

WebSphere Application Server バージョン 3.0 をインストールする前に、現行バージョンに移行したい前回のバージョンのサーブレットをすべてバックアップします。サーブレットの移行は、2 つのステップからなるプロセスです。サーブレットをバックアップする最初のステップについては、本章で説明しています。2 番目のステ

ップは、23ページの『第6章 WebSphere Application Server バージョン 1.1 からの移行』で説明します。サブレットのバックアップ後、以下の指示に従って、前回のバージョンをアンインストールしなければなりません。

アンインストール前のサブレットのバックアップ

WebSphere Application Server の前回のバージョンをアンインストールする前に、移行したいサブレットが保管されているかどうか確認してください。WebSphere Application Server バージョン 3.0 をインストールする前に、WebSphere Application Server インストール・ディレクトリーの外側のディレクトリーにサブレットをバックアップします。

これは、サブレットを WebSphere Application Server バージョン 3.0 に移行するための最初のステップです。WebSphere Application Server バージョン 3.0 のインストール後、2 番目のステップを完了しなければなりません。(23ページの『第6章 WebSphere Application Server バージョン 1.1 からの移行』を参照。)

WebSphere Application Server の前回のバージョンのアンインストール

バージョン 3.0 をインストールする前に、WebSphere Application Server の前回のバージョンはすべてアンインストールしなければなりません。WebSphere Application Server をアンインストールするには、以下のステップを完了します。

1. **[WebSphere Application Server]** フォルダをダブルクリックする。デフォルトでは、このフォルダは OS/2 デスクトップにあります。
2. **[Uninstall (アンインストール)]** アイコンをダブルクリックして、アンインストール・プログラムを開始します。
3. **<Enter>** を押すか、あるいは **[Uninstall (アンインストール)]** をクリックして、アンインストール・プロセスを続行します。パネルの指示に従って、アンインストール・プロセスを実行します。

WebSphere Application Server インストール・コンポーネントおよびオプション

WebSphere Application Server インストール・プログラムを使用すると、インストールする WebSphere 製品のコンポーネントを選択することができます。また、WebSphere Application Server の管理ドメイン設定値をデフォルト値に設定することも、Lotus Domino Go Web Server のプラグインをインストールすることもできます。WebSphere Application Server には、以下のインストール・コンポーネントとオプションが組み込まれています。

実動アプリケーション・サーバー

アプリケーション・サーバーを正しく実行するために必要なファイルをすべてインストールします。

開発者のクライアント・ファイル

クライアント・プログラムが、サーバーのコード・ライブラリーにアクセスできるようにする JAR ファイルをインストールします。

管理者のコンソール

アプリケーション・サーバーを管理するための WebSphere 管理コンソールをインストールします。

開発キット

WebSphere 環境で新規 Java サブレットを開発するための JAR ファイルをインストールします。

ドキュメンテーション

WebSphere Application Server のヘルプおよびドキュメンテーションをインストールします。

サンプル

e-business のためのサンプル Java サブレットおよび bean をインストールします。

デフォルトの設定値による管理ドメインの構成

管理ドメイン設定値をデフォルト値に設定します。

Lotus Domino Go Web サーバー・プラグイン

WebSphere Application Server が Lotus Domino Go Web サーバーを処理するために必要なプラグインをインストールします。

WebSphere Application Server インストールのヒント

これらのヒントは、WebSphere Application Server の正常なインストールに関する幾つかの重要点を強調表示するためのものです。このセクションには、インストール前、インストール中、およびインストール後のヒントが組み込まれています。

インストール前

WebSphere Application Server のインストール前に、以下の項目を読み通してください。

インストール前にサブレットを移行する

WebSphere Application Server の今回のバージョンに移行したい前回のバージョンのサブレットがある場合には、インストールを開始する前にファイルをバックアップしてください。詳しくは、9ページの『アンインストール前のサブレットのバックアップ』を参照してください。

製品の前提条件を検証する

製品の前提条件、特にバージョンと保守レベルには留意してください。詳しくは、7ページの『ソフトウェア要件』を参照してください。

Lotus Domino Server をアンインストールする

Lotus Domino Server (Lotus Domino Go Web サーバーではなく) は、WebSphere Application Server とは同時に存在できません。WebSphere Application Server をインストールする前に、Lotus Domino Server をアンインストールしなければなりません。

Lotus Domino Go Webserver をインストールするか、あるいは Java サブレット・コンポーネントを除去する

WebSphere Application Server をインストールする前に、Lotus Domino Go Webserver がインストールされていることが重要です。WebSphere Application Server は、正しく作動するために、Lotus Domino Go Web サー

バー構成ファイルを変更しなければなりません。Java サブレット・コンポーネントなしで Lotus Domino Go Web サーバーをインストールします。

Java サブレット・コンポーネントをもつ Lotus Domino Go Web サーバーをすでにインストールしている場合には、インストール・ユーティリティを実行して、Java サブレット・コンポーネントを除去します。このコンポーネントの除去に関する特別な指示については、Lotus Domino Go Web サーバーの資料を参照してください。

Lotus Domino Go Web サーバーを停止する

WebSphere Application Server をインストールする前に、Lotus Domino Go Web サーバーを停止します。

環境が正しいかどうかを検証する

PATH、LIBPATH、および CLASSPATH が正しく設定されているかどうかを確認してください。環境が正しいかどうかを検証するには、コマンド・プロンプトから `java -fullversion` コマンドを実行します。

最後に WebSphere Application Server をインストールする

WebSphere Application Server は、最後にインストールしなければなりません。ソフトウェア要件 (7ページの『ソフトウェア要件』を参照) を調べ、WebSphere Application Server をインストールする前に、リストされているソフトウェアがすべてインストールされているかどうかを確認します。

インストール中

このセクションには、WebSphere Application Server のインストール中に必要なヒントが含まれています。

宛先ディレクトリー

インストール中に、WebSphere Application Server をインストールするディレクトリーを変更することができます。デフォルトのディレクトリー以外のディレクトリーに WebSphere Application Server をインストールする場合には、ディレクトリーには標準 ASCII 文字だけを使用します。WebSphere Application Server は、ディレクトリー名の発音区別文字またはアクセント付き文字はサポートしていません。

インストール情報

インストール・パネルが、さまざまな情報に関するプロンプトを出します。以下のリストを読み、WebSphere Application Server のインストール時にこの情報を準備してください。

セキュリティー・サーバー ID およびパスワード

オペレーティング・システムで管理権限をもつ有効なセキュリティー・サーバーのユーザー ID。これらは必須の項目です。インストール・プログラムはデフォルト値を提供しません。

クライアント・キー・ファイルおよびパスワード

クライアント・セキュリティー・キー・リング用のクラス・ファイルおよびパスワード。

サーバー・キー・ファイルおよびパスワード

サーバー・キー・ファイル用のクラス・ファイルおよびパスワード。

DB2 Universal Database 情報

WebSphere Application Server と一緒に DB2 を使用している場合には、インストール・ダイアログも以下の情報に関するプロンプトを出します。

DB2 ユーザー ID およびパスワード

全データベースへのアクセス権をもつ有効な DB2 ユーザー ID およびパスワード。これらは必須の項目です。インストール・プログラムはデフォルト値を提供しません。

データベース名

管理サーバー・リポジトリに使用するデータベースの名前。DB2 データベースは、最初に WebSphere Application Server を開始するときに作成されます。データベースの名前は、このフィールドにユーザーが入力する名前です。

インストール後

このセクションには、WebSphere Application Server のインストール後に必要なヒントが含まれています。

Lotus Domino Go Web サーバー を開始する

WebSphere Application Server をインストールしてから Lotus Domino Go Web サーバーを開始しなければなりません。インストール中は、WebSphere Application Server が Lotus Domino Go Web サーバーのプラグインをインストールし、Lotus Domino Go Web サーバー構成ファイルを変更します。これらの変更を有効にするには、WebSphere Application Server をインストールしてから Lotus Domino Go Web サーバーを開始しなければなりません。

スヌープ・サーブレットを使用して、インストールをテストする

WebSphere Application Server 3.0 には、テストを目的としたスヌープ・サーブレットが組み込まれています。WebSphere Application Server バージョン 3.0 の場合は、WebSphere Administrative Server および WebSphere 管理コンソールを開始して、スヌープ・サーブレットを開始できるようにする必要があります。

WebSphere 管理コンソールの **[Topology (トポロジー)]** タブを使用して、デフォルト・サーバーを開始します。サーブレット・エンジンが実行されている場合には、Web ブラウザーからスヌープを表示することができます。

WebSphere Application Server の開始に関する詳細については、25ページの『管理サーバーの開始』を参照してください。テストのためのスヌープ・サーブレットの使用法に関する詳細については、29ページの『第8章 インストールのテストおよびトラブルシューティング』を参照してください。

第3章 WebSphere Application Server のインストールおよび構成

この章では、WebSphere Application Server およびそのコンポーネントのインストールおよび構成方法について説明します。この章では、WebSphere 管理コンソールを使用して、Web 配布を可能にする方法についても説明します。

WebSphere Application Server のインストール

WebSphere Application Server をインストールする前に、7ページの『第2章 WebSphere Application Server のインストールの計画』に目を通してください。10ページの『WebSphere Application Server インストールのヒント』の内容は特に重要です。

インストールのための主なステップ

以下の図表は、WebSphere Application Server を正常にインストールするために実行する必要のある主なステップをリストしています。7ページの『第2章 WebSphere Application Server のインストールの計画』を読み終えているのであれば、ステップの一部を完了しているはずです。

表 1. インストールのための主なステップ

インストールのステップ	詳細情報
1. ハードウェアおよびソフトウェア要件を満たしていることを確認する。たとえば、Lotus Domino Go Web サーバーや DB2 など、必要なソフトウェアをすべてインストールします。	7ページの『第2章 WebSphere Application Server のインストールの計画』を参照。
2. 以前のバージョンから WebSphere Application Server 3.0 へ移行するすべてのサブリットのパックアップを取る。	9ページの『アンインストール前のサブリットのパックアップ』を参照。
3. WebSphere Application Server の以前のバージョンをすべてアンインストールする。	9ページの『WebSphere Application Server の前回のバージョンのアンインストール』を参照。
4. Lotus Domino Go Web サーバーを停止する。	Lotus Domino Go Web サーバーの資料を参照。
5. Lotus Domino Go Web サーバーから Java サブリット・コンポーネントを除去する。	10ページの『インストール前』および Lotus Domino Go Web サーバーの資料を参照。
6. 必要な WebSphere Application Server コンポーネントを選択してインストールする。	9ページの『WebSphere Application Server インストール・コンポーネントおよびオプション』および『WebSphere Application Server のインストール』を参照。
7. Administrative Server を開始する。	25ページの『管理サーバーの開始』を参照。

表 1. インストールのための主なステップ (続き)

インストールのステップ	詳細情報
8. 管理コンソールを開始する。	26ページの『WebSphere 管理コンソールの開始』を参照。
9. Lotus Domino Go Web サーバーを開始する。	Lotus Domino Go Web サーバーの資料を参照。
10. WebSphere Application Server が指定どおりに稼働していることを確認する。	29ページの『第8章 インストールのテストおよびトラブルシューティング』を参照。

WebSphere Application Server のインストール

WebSphere Application Server をインストールする前に 9ページの『WebSphere Application Server インストール・コンポーネントおよびオプション』の概要に沿って準備をします。次に、以下のステップを完了します。

1. Software Choice から WebSphere Application Server パッケージ・ファイルをダウンロードします。
2. パッケージ・ファイルのインストール・ファイルを解凍して一時ディレクトリに入れます。
3. インストール・ファイルを解凍した一時ディレクトリから、install コマンドを実行します。

一連のパネルによるガイドに従って進むと、インストール・プロセスが実行されます。

代替インストール・メソッド

インストール・プロセスは、幾通りもの方法に変更できます。インストール・プログラムにより、インストール時の設定値をテキスト・ファイルに保管できます。このテキスト・ファイルは、手動インストールおよび自動インストールの両方の場合に使用できます。以下のリストには、手動インストールまたは自動インストールの両方の場合に、テキスト・ファイルを作成して使用するコマンドを列挙しています。

install /r filename

このコマンドでは WebSphere Application Server はインストールされません。これにより、各インストール・パネルが表示され、入力した設定値が filename という名前のテキスト・ファイルに保管されます。このファイルには任意の名前を付けることができます。

install /p filename

このコマンドにより自動インストールが実行されます。インストール・プログラムは、テキスト・ファイルに保管されている設定値を使用します。パネルは表示されません。

install /I filename

このコマンドは、テキスト・ファイルの設定値を使用して、手動インストールを実行します。パネルは、テキスト・ファイルの設定値により事前移植されているように見えますが、まだ、各パネルを進める必要があります。

install /nl

このコマンドにより、手動インストールが実行されます。インストール・プ

ログラムは、テキスト・ファイルからの値を何も読み取りませんが、設定値は、インストール・コードで作成されたデフォルト設定値を使用して事前に移植されています。これらの設定値は、インストール時に変更可能です。

セキュリティ・ランタイムの構成

WebSphere Application Server セキュリティ・ランタイムには、システム特権を付与したり、いくつかの WebSphere Application Server プロパティ・ファイルを編集したりするインストール後のステップが必要です。WebSphere Application Server インストールの `web/help` サブディレクトリーにある `secure2.htm` ヘルプ・ファイルは、セキュリティ関連の必要なステップについて記述しています。

第4章 WebSphere 管理コンソールのインストール

WebSphere 管理コンソールのみをインストールすることができます。OS/2 Warp サーバー for e-business または OS/2 Warp バージョン 4.0 クライアントに、このコンソールをインストールすることができます。これにより、コンソールを使用して、WebSphere Application Server をリモートで管理できるようになります。この節では、ハードウェアおよびソフトウェア要件ならびに WebSphere 管理コンソールのインストールについても説明します。

ハードウェア要件

WebSphere 管理コンソールには、最低でも以下のハードウェア要件が必要です。

- Pentium II 以降またはそれと互換性のあるプロセッサ
- 64 MB のメモリー
- 60 MB の空きディスク・スペース (インストール用)
- 解像度 800x600 のモニター (1024x768 を推奨)
- TCP/IP 通信用のネットワーク・アダプター

ソフトウェア要件

WebSphere 管理コンソールには、最低でも以下のソフトウェア要件が必要です。

- OS/2 Warp バージョン 4.0 およびフィックスパック 5 ならびに以下のコンポーネントがインストールされている。
 - IBM OS/2 Warp Developer Kit, Java Edition、バージョン 1.1.7、または IBM OS/2 Warp Developer Kit, Java Technology Edition、バージョン 1.1.8 のいずれかのランタイム・コンポーネント

注: OS/2 Warp 4.0 クライアントで IBM OS/2 Warp Developer Kit, Java Edition、バージョン 1.1.7 を使用する場合、クラスパスに classes.zip を設定する必要があります。

- ネットワーク・アダプターおよびプロトコル・サービス
- TCP/IP
- REXX サポート

WebSphere 管理コンソールのインストール

WebSphere 管理コンソールをインストールする方法は 2 通りあります。1 つ目は標準インストールです。2 つ目は Web 分散型インストールです。この節では、両方の方法についての手順を説明します。

標準インストール

WebSphere 管理コンソールのみをインストールするには、以下のステップを完了してください。

1. Software Choice から WebSphere Application Server パッケージ・ファイルをダウンロードします。
2. パッケージ・ファイルのインストール・ファイルを解凍して一時ディレクトリーに入れます。
3. インストール・ファイルを解凍した一時ディレクトリーから、コマンド・ファイル **install.cmd** を実行します。
4. [Select Components (コンポーネントの選択)] パネルで、以下の項目を選択します。
 - 管理者用コンソール (必須)
 - Developer's Kit (オプション)
 - 文書 (強く推奨)
 - サンプル (オプション)
5. [Host Name Configuration (ホスト名構成)] パネルで、管理したいサーバーのホスト名を入力します。
6. パネルの他の部分についても指示どおりに入力します。
7. インストール・ファイルを解凍した一時ディレクトリーを削除します。

Web 分散型インストール

WebSphere Application Server がインストールされると、WebSphere 管理コンソールの Web 分散が可能になります。これにより、ネットワーク上の任意のクライアント・マシンに WebSphere 管理コンソールがインストールできるようになります。Web 分散型インストールを完了させるには、2 つのステップを完了しなければなりません。まず、WebSphere 管理コンソールの Web 分散を可能にする必要があります。これにより、WebSphere 管理コンソールを実行するために必要なクラスおよびファイルが入っている Java JAR ファイルが複数個作成されます。次に、WebSphere 管理コンソール JAR ファイルをクライアント・マシンにダウンロードして、JAR ファイルを解凍する必要があります。WebSphere 管理コンソールをインストールするステップは、以下のとおりです。

1. WebSphere 管理コンソールの Web 分散を可能にします。
 - a. **[Lotus Domino Go Web Server Plug-in (Lotus Domino Go Web サーバー・プラグイン)]** および **[Configure Administrative Domain with Default Settings (デフォルト設定による管理ドメインの構成)]** など、すべてのインストール・コンポーネントおよびオプションを選択して WebSphere Application Server をインストールします。コンポーネントおよびオプションについての詳細は、9ページの『WebSphere Application Server インストール・コンポーネントおよびオプション』を参照してください。
 - b. コマンド・プロンプト・ウィンドウをオープンして、`<as_root>%bin` ディレクトリーに進みます。ここで、`<as_root>` は、`D:%WebSphere%AppServer` など、WebSphere Application Server のインストール先のルート (root) です。
 - c. `setupClients` スクリプトを実行します。
 - d. WebSphere Administrative Server を開始します (25ページの『管理サーバーの開始』を参照)。
 - e. WebSphere 管理コンソールを開始します (26ページの『WebSphere 管理コンソールの開始』を参照)。

- f. デフォルト・サーバーを開始します (26ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照)。
 - g. Lotus Domino Go Web サーバーが開始済みでアクセス可能であることを確認します。
 - h. Web ブラウザーにより、デフォルト URL、**http://<your_server_name>/admin** にアクセスして、インストールのテストを行います。
2. クライアント・マシンに WebSphere 管理コンソールJava JAR ファイルをダウンロードして、その中からコンソール・ファイルを抽出します。
- a. Web ブラウザーをオープンして、URL、**http://host_name /admin** に進みます。ここで、*host_name* は WebSphere Administrative Server を実行するマシンです。
 - b. この Web サイトで、**[Administrative Client]** リンクをクリックします。
 - c. **[Administrative Client for OS/2]** リンクをクリックして、クライアント・マシンにファイルを保管します。
 - d. WebSphere 管理コンソール・ファイルを抽出してインストールするには、画面の指示に従ってください。

第5章 WebSphere Application Server のアンインストール

WebSphere Application Server には、アンインストール・プログラムが組み込まれています。アンインストール・プログラムは、デスクトップまたはコマンド・プロンプトから実行できます。両方の実行方法の手順について説明します。

デスクトップからのアンインストール

デスクトップから WebSphere Application Server をアンインストールするには、以下のステップを完了してください。

1. Lotus Domino Go Web サーバーを停止します。
2. WebSphere 管理コンソールおよび WebSphere Application Server を停止します。
3. デスクトップ上の **WebSphere 3.0** フォルダをダブルクリックします。
4. アンインストール・アイコンをダブルクリックします。

コマンド・プロンプトからのアンインストール

コマンド・プロンプトから WebSphere Application Server をアンインストールするには、以下のステップを完了してください。

1. Lotus Domino Go Web サーバーを停止します。
2. WebSphere Application Server および WebSphere 管理コンソールを停止します。
3. コマンド・プロンプト・ウィンドウをオープンします。
4. `<boot_volume>%os2%ij` ディレクトリに変更します。ここで、`<boot_volume>` は OS/2 がブートされるディレクトリです。
5. 手動アンインストールを実行するには、以下のように入力します。

- `juninst <as_root>%UnInst -n -lfilename`

ここで、`<as_root>` は WebSphere Application Server がインストールされているディレクトリで、`filename` は作成されるアンインストール・ログ・ファイルです。

自動アンインストールを実行するには、以下のように入力します。

- `juninst <as_root>%UnInst -s -lfilename`

ここで、`<as_root>` は WebSphere Application Server がインストールされているディレクトリで、`filename` は作成されるアンインストール・ログ・ファイルです。

第6章 WebSphere Application Server バージョン 1.1 からの移行

この章では、移行プロセスの後半である、WebSphere Application Server のインストール後に実行する部分について説明します。これは、2 つステップのうちの 2 番目のステップです。1 番目のステップの詳細については、9ページの『アンインストール前のサブレットのバックアップ』を参照してください。

サブレットの移行

WebSphere Application Server バージョン 1.1 のアンインストール後、移行プロセスの前半でバックアップを取ったサブレットを各ディレクトリーに入れて、移行を完了します。WebSphere Application Server によりユーザー用に作成されたディレクトリーの他にもディレクトリーがある場合は、WebSphere Application Server の前回のバージョンの場合と同じ方法でカスタム・ディレクトリーを作成します。

移行済みのサブレットの活動化

前回使用していたサブレットを手動で移行した後、WebSphere Application Server を使用して、サブレットを管理することができます。WebSphere Application Server は、`<as_root>¥servlets` ディレクトリーをモニターして、サブレットの変更時にサブレットを自動的に再ロードします。

他のディレクトリーにサブレットがあり、それらを `<as_root>¥servlets` ディレクトリーに移動したくない場合は、WebSphere 管理コンソールを使用して、モニターするディレクトリーをさらに指定できます。

第7章 WebSphere Application Server の開始および停止

この章では、以下の機能の開始および停止方法について説明します。

- WebSphere Administrative Server
- WebSphere 管理コンソール
- アプリケーション・サーバー・プロセス (デフォルト・サーバーまたは作成済みの任意のサーバー)

管理サーバーの開始

管理サーバーは、コマンド・プロンプトまたはデスクトップから開始できます。

デスクトップからの管理サーバーの開始

デスクトップから管理サーバーを開始するには、以下のステップを完了してください。

1. デスクトップ上の **WebSphere 3.0** フォルダーをダブルクリックします。
2. **Admin Server** アイコンをダブルクリックします。
3. 管理サーバーのコマンド・ウィンドウにいくつかのメッセージが表示されます。最後のメッセージは、管理サーバーが稼働していてレディー状態であることを意味します。メッセージは以下のとおりです。

**AdminServer A WebSphere Administration Server open for e-business.
(WebSphere Administration Server の 1 つである AdminServer が
e-business 用にオープンしています。)**

コマンド・プロンプトからの管理サーバーの開始

コマンド・プロンプトから管理サーバーを開始するには、以下のステップを完了してください。

1. コマンド・プロンプトから、`<as_root>/bin` ディレクトリに変更します。ここで、`<as_root>` は、WebSphere Application Server がインストールされているディレクトリです。
2. このディレクトリから `startupServer` コマンドを実行します。
3. 管理サーバーのコマンド・ウィンドウにいくつかのメッセージが表示されます。最後のメッセージは、管理サーバーが稼働していてレディー状態であることを意味します。メッセージは以下のとおりです。

**AdminServer A WebSphere Administration Server open for e-business.
(WebSphere Administration Server の 1 つである AdminServer が
e-business 用にオープンしています。)**

管理サーバー の停止

WebSphere Application Server を停止するには、WebSphere Application Server ウィンドウを活動状態にして、`<CTRL>+<C>` を押します。

WebSphere 管理コンソールの開始

この節では、デスクトップおよびコマンド・プロンプトからの WebSphere 管理コンソールの開始について説明します。

デスクトップからの WebSphere 管理コンソールの開始

デスクトップから WebSphere 管理コンソールを開始するには、以下のステップを完了してください。

1. デスクトップ上の **WebSphere 3.0** フォルダをダブルクリックします。
2. **Admin Console** アイコンをダブルクリックします。

コマンド・プロンプトからの WebSphere 管理コンソールの開始

WebSphere 管理コンソールを開始するには、以下のステップを完了してください。

1. コマンド・プロンプトから、`<as_root> /bin` に変更します。ここで、`<as_root>` は WebSphere Application Server がインストールされているディレクトリーです。
2. このディレクトリーから `adminclient` コマンドを実行します。

トラブルシューティングのヒント: コンソール・ウィンドウが表示されない場合

WebSphere 管理コンソールの開始後、コンソール・ウィンドウの前にある [Establishing Connections (接続の確立)] ウィンドウがオープンした状態になっているため、コンソール・ウィンドウが現れないことがあります。この場合は、管理サーバーが稼働していない状態であるため、コンソールがサーバーに接続できないのが原因であるかもしれません。

この状態を修正するには、以下のようになります。

1. [Establishing Connections (接続の確立)] ウィンドウをクローズします。
2. 管理サーバーが稼働中であることを確認します。
3. 管理サーバーが稼働中でない場合は稼働します。(25ページの『管理サーバーの開始』を参照)。
4. 管理コンソールを再始動してみてください。

WebSphere 管理コンソールの終了

WebSphere 管理コンソールを終了するには、コンソール・メニュー・バーで **[Exit (終了)]** をクリックします。

アプリケーション・サーバーの開始および停止

WebSphere 管理コンソールでアプリケーション・サーバー・プロセスを開始するには以下のようにします。

1. **[Topology (トポロジー)]** タブをクリックします。
2. WebSphere Administrative Domain ツリー・ビューを展開します。
3. ホスト名ツリー・ビューを展開します。

4. デフォルト・サーバーまたは作成した任意のサーバーをクリックします。
5. 以下のいずれかを実行します。
 - WebSphere 管理コンソール・ツールバーの丸い緑色のボタンをクリックします。
 - サーバー名を右マウス・ボタン・クリックしてから、**[Start (開始)]** を選択してクリックします。

同様に、アプリケーション・サーバー・プロセスを停止するには、最初の 4 つは同じステップに従い、以下のいずれかを実行します。

1. WebSphere 管理コンソール・ツールバーの丸い赤いボタンをクリックします。
2. サーバー名を右マウス・ボタン・クリックしてから、**[Stop (停止)]** を選択してクリックします。

注: WebSphere 管理コンソール以外すべて停止したい場合は、25ページの『管理サーバー の停止』を参照してください。

WebSphere 管理コンソールからアプリケーション・サーバーを開始中にエラーを受け取った場合は、スワップ・スペースを広げて再始動します。エラー・メッセージの例は以下のとおりです。

- ダイアログ・ボックスには、**Error creating new process.012 not enough space (スペース不足が原因で新規プロセスの作成時にエラーが発生しました。012)** と表示されます。
- トレース・ファイルには、**Failed to start the bean CreateURIHome (CreateURIHome bean の開始に失敗しました)** というようなメッセージが書き込まれます。

第8章 インストールのテストおよびトラブルシューティング

ここまでで WebSphere Application Server をインストールして、必要最低限の構成を実現しているのに、WebSphere Application Server が適切に機能しているかどうかを検証します。この章では、以下のことについて説明します。

- WebSphere Application Server コンポーネントのテスト
- WebSphere Application Server デバッグ機能のアクセスおよび使用
- 既知の問題の認識および回避

WebSphere Application Server が実行中であることの検証

サーブレットをテストする前に、WebSphere Application Server および WebSphere 管理コンソールを開始しなければなりません。

1. WebSphere Application Server を開始します (25ページの『管理サーバーの開始』を参照)。
2. WebSphere 管理コンソールを開始します (26ページの『WebSphere 管理コンソールの開始』を参照)。
3. WebSphere 管理コンソールからデフォルト・サーバーを開始します (26ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照)。
4. Lotus Domino Go Web サーバーを開始します (Lotus Domino Go Web サーバーの資料を参照)。

Lotus Domino Go Web サーバーのテスト

Lotus Domino Go Web サーバーがインストールされ、稼働していることを検証するためには、Webserver を開始して、そのフロントページをオープンします。

`http://<your_server_name>`

サーブレットのテスト

WebSphere Application Server のインストールを検証し、サーブレットをテストするには、Web サーバーを開始していなければなりません。Web サーバーの開始後、ブラウザを使用して以下のサイトをオープンします。

`http://<your_server_name> /servlet/snoop`

ここで、<your_server_name> は、ユーザーのホスト・マシン名です。

2 つのサンプル・アプリケーション (サーブレット・グループ) が、Application Server ホスト・フォルダーの下にインストールされています。アプリケーションは、default_app (スヌープを含む) および例です。これらのアプリケーションからサーブレットを実行するには、ブラウザを使用して、このサーブレットの URL をオープンします。サーブレットの URL を表示するには、WebSphere 管理コンソールを使ってそのサーブレットの属性を表示してください。

サブレットのトラブルシューティング

サブレットをオープンして表示することができない場合は、Web サーバーが正しくインストールされていて、それが稼働中であることを確認してください。ローカル・ホストではなくユーザーのホスト名を使用していて、WebSphere 管理コンソールからデフォルト・サーバーを開始していることも確認してください (26 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照)。

現在のサーバー構成の表示

WebSphere Application Server の現在の構成を表示するには、以下のステップに従ってください。

1. WebSphere Application Server が稼働していることを検証した後、Web ブラウザーで以下のページをオープンしてください。

`http://<your_server_name> /webapp/examples/`

2. オープンしたページで、**[Show Server Configuration (サーバー構成の表示)]** リンクをクリックします。

デバッグ、トレース、ロギングおよびモニター

この節では、WebSphere Application Server およびそのコンポーネントのトレース、ロギング、モニター、およびデバッグのために使用可能な機能の概要について説明します。

WebSphere 管理コンソールのヘルプ・システムにより、Application server およびユーザー独自のプログラムの両方の問題を検出し、診断するために、デバッグ、トレース、ロギングおよびモニターを使用可能にするために役立つ説明が提供されています。

WebSphere 管理コンソール以外からヘルプ・システムにアクセスする場合は、以下のファイルをオープンします。

`<as_root> /web/help/helpcon.htm`

ここで、`<as_root>` は、WebSphere Application Server のインストール先のルート・ディレクトリーです (たとえば、`c:/WebSphere/AppServer/`)。

WebSphere 管理コンソールの **[Help (ヘルプ)]** メニューからヘルプに直接アクセスすることもできます。

第9章 WebSphere 管理コンソールを使用する際のヒント

これまでの章で説明したとおりにすべて完了していれば、既に WebSphere Application Server および WebSphere 管理コンソールは実行中となっています。さらに、WebSphere 管理コンソールを使用して、サーブレットのインストールの検査を終了している場合もあります。

この章では、WebSphere 管理コンソールについてさらに詳細に説明し、コンソールを使用して管理用タスクを完了する方法を記述しているオンライン・ヘルプを紹介します。

WebSphere 管理コンソールにより実現可能な機能

WebSphere 管理コンソールは、以下のリソースを使用して、タスクを完了できるメイン・ウィンドウです。

Web アプリケーション

サーブレット、HTML、および JavaServer Pages (JSP) ファイルの組み合わせを Web アプリケーションに構成して、単一ユニットとしてリソースを管理できるようにします。

アプリケーション・サーバー

Web サーバーによりサーブレットを含むアプリケーションに対する要求が処理できる、アプリケーション・サーバー・プロセスを管理します。

サーブレット・エンジンおよびサーブレット

アプリケーション・サーバー内で実行され、サーブレット要求を処理するサーブレット・エンジンを管理します。

ファイル

JavaServer Pages (JSP) ファイル、HTML ファイル、および Web リソースを管理します。

ノード 管理ドメイン内の物理マシンを管理します。

さらに、コンソールを使用して、以下のことも実現できます。

- サーバーやサーブレットなどのリソースの使用状況およびパフォーマンス統計をモニターします。
- トランザクションをモニターして、結果を強制出力させます。
- セキュリティー・ポリシーを確立および実施します。
- ユーザー・プロファイルおよびセッション・サポートを組み込んだユーザーの Web サイトで実行するアプリケーションに個人情報設定が可能です。
- アプリケーションとサイトを分離するには、仮想ホストを使用してください。
- メッセージをモニターして、トレースを開始します。

WebSphere 管理コンソールを使用する際のヘルプ

上記にリストしたタスクの完了方法およびコンソールの使用方法のヒントについて、詳しくは、**[Help (ヘルプ)]** メニューの **[What is it? (検索項目)]** および **[How do I? (操作方法)]** オプションで使用可能なオンライン資料を参照してください。

第10章 サービスについて

WebSphere Application Server Web サイトには、よくある質問と回答が記載されています。WebSphere Application Server に関する一般的な質問であり、OS/2 に限った内容ではありません。このサイトには、次のアドレスでアクセスできます。

<http://www.ibm.co.jp/software/websphere/appserv/library.html> (日本語)

<http://www.ibm.com/software/websphere/appserv/wasfaq.html> (US サイト)

WebSphere Application Server についてのお問い合わせは、IBM ビジネス・パートナー、製品販売弊社営業担当員またはダイヤル IBM までご連絡下さい。

ダイヤル IBM : 0120-04-1992

受付時間 : 月～金 9:00～18:00 (祝日 12/30～1/3 除く)

付録A. インストールに使用可能なコンポーネントおよびオプション

この付録では、WebSphere Application Server インストール・コンポーネントおよびオプションの定義をリストします。定義には、各コンポーネントまたはオプションの説明、および各コンポーネントまたはオプションが使用可能な条件が含まれます。

実動アプリケーション・サーバー

このコンポーネントは、実動アプリケーション・サーバー用のすべてのファイルをインストールします。このコンポーネントは、マシンに Lotus Domino Go Webserver がインストールされている場合にのみ使用可能です。

開発者のクライアント・ライブラリー

このコンポーネントは、クライアント・プログラムがサーバーのコード・ライブラリーにアクセスできるようにする JAR ファイルをインストールします。このコンポーネントは、マシンに Lotus Domino Go Webserver がインストールされている場合にのみ使用可能です。

管理者のコンソール

このコンポーネントは、WebSphere 管理コンソール用のファイルをインストールします。このコンポーネントはいつでも使用可能です。ただし、Lotus Domino Go Web サーバー がマシンにインストールされていない場合は、インストール・プログラムは、ユーザーがインストールしたいのは WebSphere 管理コンソールだけであると想定します。

開発キット

WebSphere Application Server 環境で新規 Java サブレットを開発するための JAR ファイルをインストールします。このコンポーネントはいつでも使用可能です。

ドキュメンテーション

このコンポーネントは、WebSphere 管理コンソールのドキュメント・センターおよびヘルプを組み込む WebSphere Application Server ドキュメンテーションをインストールします。どちらのドキュメント・セットも、ローカルでインストールされます。このコンポーネントはいつでも使用可能です。

サンプル

このコンポーネントは、WebSphere Application Server サンプル・ギャラリーをインストールします。サンプル・ギャラリーには、小さい一般サンプルのセットが組み込まれています。このコンポーネントはいつでも使用可能です。

デフォルトの設定による管理ドメインの構成

このオプションは、管理ドメイン設定値をデフォルト値に設定します。このオプションは、Lotus Domino Go Web サーバー がマシンにインストールされている場合にのみ使用可能です。

Lotus Domino Go Web サーバー・プラグイン

このオプションは、WebSphere Application Server が Lotus Domino Go Web サーバーを処理するために必要なプラグインをインストールします。このオプションは、Lotus Domino Go Web サーバーがマシンにインストールされている場合にのみ使用可能です。

付録B. Lotus Domino Go Web サーバー構成ファイルの変更

インストール時に、Lotus Domino Go Web サーバー・プラグインのインストールを選択すると、以下の Lotus Domino Go Web サーバー構成ファイルにも変更が加えられます。

Lotus Domino Go Web サーバー (httpd.cnf)

```
NameTrans * C:%WebSphere%AppServer%bin%go46.dll:nametrans_exit
Authorization * C:%WebSphere%AppServer%bin%go46.dll:authorization_exit
Service IBMWebSphere C:%WebSphere%AppServer%bin%go46.dll:service_exit
Service /servlet/* C:%WebSphere%AppServer%bin%go46.dll:service_exit
Service /*.jhtml C:%WebSphere%AppServer%bin%go46.dll:service_exit
Service /*.jsp C:%WebSphere%AppServer%bin%go46.dll:service_exit
Pass /IBMWebAS/websphere/samples/* C:%WebSphere%AppServer%samples%*
Pass /IBMWebAS/* C:%WebSphere%AppServer%web%*
ServerInit C:%WebSphere%AppServer%bin%go46.dll:init_exit
C:%WebSphere%AppServer%properties%bootstrap.properties
ServerTerm C:%WebSphere%AppServer%bin%go46.dll:term_exit
```

これは、構成ファイル内の上記項目が、WebSphere Application Server のインストール終了後、どのように表示されるかを示しています。

付録C. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で現在使用可能な製品およびサービスに関する情報については、日本の IBM 担当者にお問い合わせください。本書で IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する操作の評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書で説明する特許権 (特許出願中のものを含む) を所有している場合があります。本書の提供は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。特許実施許諾に関するお問い合わせは、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31

AP事業所

IBM World Trade Asia Corporation

Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書に対して、周期的に変更が行われ、これらの変更は、文書の次版に組み込まれます。IBM 社は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラム、あるいはその両方に対して、改良または変更、あるいはその両方を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様になんら義務も負わせない適切な方法で、使用もしくは配布することがあります。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Department LZKS
11400 Burnet Road
Austin, TX 78758
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は異なることがあります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

他社の製品に関する情報は、その製品の供給者、それらの供給者が公表している出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストはおこなっておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の損害賠償請求については確証できません。他社製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお尋ねください。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は現れない場合があります。

商標

以下の用語は、International Business Machines Corporation の商標です。

- DB2
- DB2 Universal Database
- IBM
- OS/2
- OS/2 Warp
- WebSphere

Lotus および Domino は、米国またはその他の国における Lotus Development Corporation の商標です。

Pentium は、Intel Corporation の商標または登録商標です。

Java および Java 関連のすべての商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

【ア行】

アプリケーション・サーバー 9, 35
開始 26
停止 26
アンインストール
 WebSphere Application Server V3.0 21
 WebSphere Application Server の前回のバージョン 8
移行, サブレットの 9, 23
移行するサブレットの活動化 23
インストール, WebSphere Application Server
 ヒント 10
 インストール後 12
 インストール前 10
 インストール中 11
インストール, WebSphere Application Server の
 インストールの計画 7
 主なステップ 13
 コンポーネントおよびオプション 9, 35
 ソフトウェア要件 7
 代替インストール・メソッド 14
 ハードウェア要件 7
 WebSphere Application Server のインストール 14
インストール, WebSphere 管理コンソールの 17
 ソフトウェア要件 17
 ハードウェア要件 17
 標準 17
 Web 分散型 18
インストール後 12
インストール前 10
インストール中 11

【カ行】

開始
 アプリケーション・サーバー 26
 管理サーバー 25
 WebSphere 管理コンソール 26
開発キット 35
開発者のクライアント・ファイル 9, 35

開発者のクライアント・ライブラリー 35
管理サーバー
 開始 25
 コマンド・プロンプトからの開始 25
 停止 25
 デスクトップからの開始 25
管理サーバー の停止 25
管理者のコンソール 9, 35
キット, 開発 35
機能 1
機能強化 1
クライアント・ライブラリー 35
構成ファイルの変更
 Lotus Domino Go Web サーバー 37
 コマンド・プロンプト
 管理サーバー の開始 25
コンポーネントおよびオプション 9, 35
コンポーネントの構成
 セキュリティ・ランタイム 15

【サ行】

サーバー構成の表示 30
サービスについて 33
サブレット
 移行済みの活動化 23
 移行する 9, 23
 サポート 2
 テスト 29
 トラブルシューティング 30
サンプル 9, 35
終了
 WebSphere 管理コンソール 26
商標 41
セキュリティ・ランタイム 15
ソフトウェア要件
 WebSphere Application Server 7
 WebSphere 管理コンソール 17

【タ行】

タスク
 WebSphere 管理コンソール 31
停止
 アプリケーション・サーバー 26
デスクトップ
 管理サーバー の開始 25
テスト
 サブレット 29
 Lotus Domino Go Web サーバー 29
 WebSphere Application Server 29

テスト (続き)
 WebSphere 管理コンソール 29
デバッグ 30
ドキュメンテーション 9, 35
特記事項 39
トポロジー 8
トラブルシューティング
 サブレット 30
 WebSphere Application Server 29
 WebSphere 管理コンソール 26, 29
トレース 30

【ナ行】

について
 WebSphere Application Server 1

【ハ行】

ハードウェア要件
 WebSphere Application Server 7
 WebSphere 管理コンソール 17
バックアップ, サブレットの 9, 23
表示, 現在のサーバー構成の 30
ヒント
 WebSphere Application Server インストール 10
 WebSphere 管理コンソール 31
プラグイン
 Lotus Domino Go Web サーバー 9, 35, 36
ヘルプ
 Docment Center 5
 Web に関する 6
 WebSphere 管理コンソール 5, 32

【マ行】

モニター 30

【ラ行】

ログイン 30

C

classes.zip 17
classpath
 classes.zip の追加 17

E

eXtensible Markup Language (XML) 1, 3

J

JavaServer Pages (JSP) ファイル 3
JSP (JavaServer Pages) ファイル 3

L

Lotus Domino Go Web サーバー
構成ファイルの変更 37
テスト 29
プラグイン 9, 35, 36
Java サブレット・コンポーネントを
除去する 10
WebSphere Application Server のインス
トール後の再始動 12
Lotus Domino Server 7, 10

O

OS/2 Warp 4.0 クライアント 17

W

Web サイトの内容の生成 2
Web サイトの内容へのアクセス 2
Web 内容をビジネス論理から分離する 3
Web ベースのアプリケーション、環境 3
WebSphere Application Server 35
移行するサブレットの活動化 23
インストール
主なステップ 13
コンポーネントおよびオプション
9, 35
ソフトウェア要件 7
代替インストール・メソッド 14
ハードウェア要件 7
ヒント 10
WebSphere Application Server のイ
ンストール 14
インストールの計画 7
概要 1
機能 1
Web サイト内容を生成し、その内
容にアクセスするためのサブレ
ット・サポート 2
Web 内容をビジネス論理から分離
するための JavaServer Pages ファ
イル・サポート 3
Web ベースのアプリケーションに
可能な環境 3
機能強化 1
コンポーネントの構成
セキュリティ・ランタイム 15
サービスについて 33
サブレットの移行 9, 23
詳細 5

WebSphere Application Server 35 (続き)
前回のバージョンのアンインストール
8
テスト 29
トポロジ 8
トラブルシューティング 29
について 1

WebSphere 管理コンソール 35
アプリケーション・サーバーの開始お
よび停止 26
インストール 17
ソフトウェア要件 17
ハードウェア要件 17
標準インストール 17
Web 分散型インストール 18
開始 26
終了 26
使用する際のヒント 31
タスク 31
テスト 29
デバッグ 30
トラブルシューティング 26, 29
トレース 30
ヘルプ 5, 32
モニター 30
ロギング 30

X

XML (eXtensible Markup Language) 1, 3



Printed in Japan

SB88-8521-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12